

NEWS

府民交流フェスタの様子 撮影:李明(京都大学大学院生)

特集 多様な住民とともに暮らす ～ムスリム住民編～ …P1～2

目次

- 通学が難しくても自宅で学べる!外国人住民向けオンライン日本語教室…P2
- 2025年度 多文化交流会 in 京都(報告)、国際交流員(CIR)着任の挨拶…P3
- 『やさしい日本語』ひとくち、相談窓口Q&A…P4

特集

多様な住民とともに暮らす

～ムスリム住民編～



| 京都イスラーム文化協会の活動

イスラームというと、一般の方には、遠い外国の宗教と思えるかもしれませんが、今では、就労、留学でイスラーム圏から来日する人も増えており、インバウンドの訪日客も非常に多くなっています。イスラームは「(唯一神への)帰依」という意味で、信徒は「ムスリム(帰依した人)」と言います。日本人ムスリムも、徐々に増えています。

私どもは、「京都ムスリム協会」という、モスク(礼拝所)を運営している宗教法人と、日本とイスラーム諸国との友好関係を推進する特定非営利活動法人「京都イスラーム文化協会」の二つの団体を活動の柱としています。前者では、京都に在住しているムスリムの方に信仰実践の場を提供し、彼らが戒律を守りながら日本で暮らすサポートをして、後者ではイスラーム圏からの訪問者を助けて、日本とイスラーム圏との友好が進むように活動しています。私自身は、大人になってから日本に帰化しましたが、京都イスラーム文化協会のメンバーは日本人が大半です。

| 戒律に配慮した生活サポート

ムスリムは、今や世界人口の4分の1を占めます。グローバル化時代の日本において、イスラーム世界についての理解を広めるとともに、来日したムスリムにも、日本の文化を学ぶ機会をつくるよう努めています。具体的には、留学生や研修生に、警察の協力を得て交通ルールを教える機会を設けたり、日々の生活上の悩み相談に応じたりしています。

イスラームの教えでは、豚肉は食べられない、飲酒も禁止されているなど、厳しい戒律があります。これは、個人の好き嫌いではなく、宗教的な考え方に基づくものです。毎年、ラマダーン月*の日没時の断食後に行われる食事会には、京都市民の皆さんにも来ていただき、お話をしています。宗教的背景を共有することで、地域の方とよりよい関係を築いていきたいと考えています。コロナ禍前は、ラマダーン中に



筆者

冠紗芭図(かーん・しゃばず)さん
京都ムスリム協会・責任役員

*注:ラマダーン月は、イスラーム教徒が1年に一度、日の出から日没まで断食を行う月です。

1回大がかりな食事会も開催していたので(最多時1,500人の参加)、いずれ再開したいものです。

女性の中には、髪も肌も見せない服装をしている人もいますので、街で歩いていても目につきやすいです。彼女たちは、病院に行く時に女性のお医者さんを希望することが多いので、必要に応じて、病院やクリニックの紹介をおこなっています。イスラームの戒律にあった食事を「ハラール食」と言いますが、現在は、それを提供くださる病院もあります。

ムスリムと地域の共生

ムスリムといっても、宗教的な価値を大事にしているという点を別とすれば、外国から来ても、みな同じ時代を生きていますから、皆さんと共有している感覚もたくさんあると思います。是非、イスラームはこうだから、というような思い込みを持たずに、ランクにつきあって、本人たちの声を聞いていただくとありがたいです。

ムスリムの側にも同じことが言えます。コミュニケーションの鍵は日本語能力なので、私どもも、そのサポートを強めるよう、いろいろ考えています。地域社会でのルールなどは、理解が足りないと思われたら、是非、率直にご助言ください。

京都グランド・モスクで礼拝するムスリムたち



通学が難しくても自宅で学べる！

外国人住民向け オンライン日本語教室



オンライン日本語教室の授業風景

京都府国際センターでは、府内にお住まいの外国人住民の方々を対象に、今年度からオンラインによる日本語教室を実施しています。

「近くに日本語教室がない」「仕事で夜しか時間がとれない」など、通学が難しい方でも自宅から安心して学べることを目的としています。オンライン会議システムを利用し、講師や学習者が画面を通して日本語でやりとりを行います。この教室では、文型を覚えるだけでなく、日本語で「何ができるようになったか(Can-do)」に注目して学習を進めています。



せいかつの日本語 (昼間 10:00～12:00/週3回)

- ・ひらがな・カタカナの読み書きから、「あいさつをする」、「買い物をする」、「役所に行く」など、生活に必要な日本語を学びます。
- ・クラス2では、「美容院に行く」「病院に行く」「災害に備える」など、より複雑な場面を想定した練習を行っています。



はたらくための日本語 (夜間 19:00～21:00/週2回)

- ・職場でのやりとりを中心に、「指示をうける」「休みをお願いします」「遅刻の連絡をする」など、基本的な表現を学びます。
- ・クラス2では、「相談する」「トラブルを報告する」「電話で対応する」など、より具体的な職場での会話を練習しています。

受講料は無料で(テキスト代・振込手数料は自己負担)、8割以上出席した方に修了証をお渡ししています。府内各地から多様な背景を持つ学習者が参加しており、画面の向こうからは笑顔と「できました」の声がたくさん届いています。

(実施協力: 日本国際協力センター関西支所)

2025
年度

多文化交流会 in 京都（報告）

～ もっと知ろう！もっと伝えよう！一緒に話そう！～



多文化交流会 グループプレゼンテーションの様子

京都には150を超える国・地域の出身者が住んでいます。特に近年は、ベトナムやネパール、インドネシア、ミャンマー、スリランカなどアジア諸国からの住民が増えています。異なる言語や文化を持つ人々との生活は、時に誤解を生みやすく、思わぬ軋轢が生じることがあります。大きな災害の時には、様々な困りごととも起こります。でも…外国人ってどんな人？日本での暮らし困ってる？日本は好きですか？実際に話してみたら思わぬ気付きがあるかも！異なる文化圏で生活することについて考え、話し合ってみました。

交流会には、10か国14人の外国人と15人の日本人の参加がありました。

初めにベトナム、ミャンマー、スリランカ、フランス、日本の5人のスピーカーから母国の紹介や日本の好きなところ、大変なこと、海外で苦労したことなどを報告してもらった後、グループに分かれて「外国人としての困りごと」と「それに対する解決策」などについて話し合ってもらいました。

外国人側からは、「日本人の友人や知り合いが作りにくい」「日ごろ困っていることや疑問に思っていることなどを話し合う機会が少ない」といった声がある一方、日本人側も「聞く機会があまりない」といったすれ違いの状況がよくわかり、「こうして集まって話し合える場が大切」という意見に皆さん頷いていました。

京都府国際センターでは、多文化共生のための取組みの一つとして、これからもこういった交流の機会を持っていきたいと考えていますので、皆様も是非、ご参加ください。

国際交流員(CIR)着任の挨拶

みなさん、こんにちは！ ニセロン・マエラと申します。

2025年8月末から、京都府国際センターで国際交流員として働いています。

私はフランス生まれで、出身は北西部にあるブルターニュ州のレンヌという町です。ブルターニュ州は、美しい海岸線や碧い海で有名な場所です。ブルターニュ発祥のガレットやクレープについて聞いたことがあるかもしれません。



■ 日本に興味を持ったきっかけ

叔父が日本人の女性と結婚したことがきっかけです。6歳のとき、いとこたちに会うために初めて日本を訪れました。幼かったので風景や場所はあまり覚えていませんが、そのときに感じたことは今でもはっきり覚えています。すべてが、もう一度見たい夢のように感じました。

家の近くの高校で14歳から日本語を勉強し、翌年、「コリブリ（日仏高等学校ネットワーク）」というプログラムに参加して、東京の高校で3週間の交流を体験しました。

■ オンライン留学

その後、リヨン政治学院に進学し、同志社大学に留学する予定でしたが、コロナの影響で授業がすべてオンラインとなりました。時差を軽減するために、韓国やタイなどを訪れながら授業を受けました。このような旅や出会いを通して、さまざまな文化を体験しながら、それらをより深く理解したいという思いを強く持つようになりました。

その後、京都にあるフランスのアーティスト・イン・レジデンス「ヴィ

ラ九条山」で6か月間のインターンシップを行い、「国際的な文化イベントのマネジメント」をテーマとした修士課程を修了しました。

■ 国際交流員として再び京都へ

このたび、国際交流員として再び京都に戻って来ることができ、大変光栄に思っております。日本への情熱と、異文化交流を深めたいという思いを、この仕事を通じて実現できることを嬉しく思います。さまざまな背景を持つ人々をつなぎ、平和と相互理解を促進できればと願っています。そして、新しい友達もできたらいいなと思っています。よろしくお願いします！



レンヌの旧市街にあるユニークな木組みの建物

「やさしい日本語」を知っていますか？



日本語がよくわからない人にも、わかりやすく伝えるための日本語です。地震や台風などの災害時、また行政等からの大切なお知らせの際に、外国人やお年寄り、子ども、障害のある方にも、必要な情報を素早く伝えることができます。

「やさしい日本語」のポイント (は・さ・みの法則)

- は はっきり……はっきり言う
- さ さいごまで…文を最後まで言う
- み みじかく……1つの文は短く言う



下の例文を「やさしい日本語」に変えてみましょう！

＜ 平常時の風水害への備え ＞

- ① 停電に備えて、懐中電灯やラジオを用意しておく。

答え

やさしい日本語版「外国人のための防災ガイドブック」8ページへ
<https://www.kpic.or.jp/saigai/disasterhandbook.html>



相談窓口 Q & A

Q 役所の窓口です。外国人の方が片言の日本語で話してくるので、ゆっくり簡単に話したり、翻訳アプリで対応していますが、本当に伝わっているか不安です。

A 複雑な相談内容や誤解が生じる可能性がある場合には、母語で話す環境を整えることが「人権」を守る大切な支援となります。

母語で話すことで、相談者は自分の気持ちや状況をより正確に伝えることができ、支援者もニーズやリスクを誤解なく把握できます。その結果、適切な支援につながり、信頼関係や安全の確保にもつながります。

当センターでは、25言語に対応した電話通訳を無料でご利用いただけます。ご利用の際は、相談員に「通訳希望」とお伝えください。ぜひ積極的にご活用ください。

外国人支援についてお困りのことなど
お気軽にご相談ください

京都府多言語生活相談

TEL : 075-681-4800

詳細はこちら



～賛助会員を募集しています～

当センターが実施する様々な地域国際化事業や団体運営の財源に充てるため、趣旨にご賛同いただける皆さまを対象に賛助会員を募集しています。

【会 費】 個人会員／年額 1口 3,000円
団体会員／年額 1口 10,000円

- 【特典】 ・センター情報誌など定期刊行物の送付
・当センター主催の各種講座等への優先参加
・当センター内の有料スペースを会員料金で利用可能
・他団体との提携による会員特典

入会方法など詳しいことはHPをご覧ください。

www.kpic.or.jp/about/sanjo.html



パスポート写真撮影のご案内

パスポートの規格に合った写真を責任を持って撮影します。

【場 所】 京都駅ビル8階

(京都府旅券事務所の隣に併設)

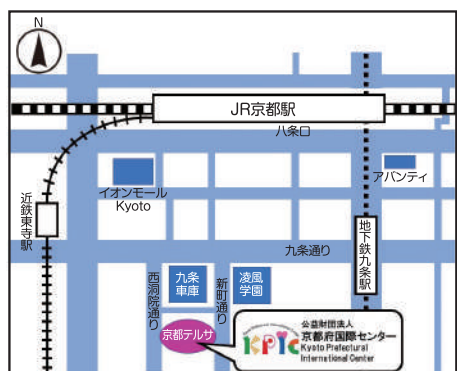
【営業時間】 月曜日～金曜日 9:00～16:30

【撮影料金(税込)】

2枚 1,800円／4枚 2,300円／6枚 2,800円

【お問い合わせ】

TEL 075-342-5002



公益財団法人京都府国際センター

〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70 京都テルサ東館3階

Tel : 075-681-2500

Fax : 075-681-2508 E-mail: main@kpic.or.jp

www.kpic.or.jp

facebook www.facebook.com/kpic.kyoto

開館時間／午前10時～午後6時

休館日／火曜日、祝日、年末年始(12/29～1/3)

公益財団法人京都府国際センター NEWS Winter 2025 冬号106号

編集・発行／公益財団法人 京都府国際センター Kyoto Prefectural International Center

